地域情報

山添村『茶の実オイル研究所』が放棄茶園の再活用で地域活性化を目指す

～ 茶の実のポテンシャルを引き出し地域ビジネスの創出へ ～

■放棄茶園に眠る資源、茶の実の活用に取り組む

奈良県の北東部に位置する山添村は、面積の約80%を山林が占める。標高が高く日照時間が短いため昼夜の温度差が大きくなり、おいしい茶葉が育つことから、お茶（大和茶）の生産が盛んだ。しかし年々生産者の高齢化や後継者不足が進み、耕作放棄された茶園が目に付くようになった。増加する放棄茶園を有効利用できないかと「東豊（ひがしとよ）ベース※」を拠点に活動している中森晃一（なかもりこういち）氏は、放棄茶園を伐採した際に出る木や枝を利用した木炭や木酢液の製造、炭焼き体験イベントなど村や里山の活性化を目指す活動に取り組んできた。そうした中で、茶園に無数に落ちる茶の実を搾って油（オイル）を採取できるということを知り、2021年８月に「茶の実オイル研究所」を設立した。

> ※「東豊ベース」
> 山添村にある旧東豊小学校を地域再生の拠点として開放した施設。地域で活動する各種団体がイベントの開催や様々な分野から講師を招きセミナーを開催するなど、村の魅力を発信している。

「綺麗に管理された茶園よりも、荒れた茶園の方が花も実も多く茶の実の収穫に適している。これが放棄茶園の解決になるのではと、まさに逆転の発想だった」と中森氏は振り返る。さらに中森氏らは、県外の大学で茶実収穫茶園を見学し、東豊ベース周辺の放棄茶園を茶実収穫用の畑に転換し、本格的に茶の実オイル作りを開始した。

■お茶から生まれた肌に優しい保湿クリーム

茶は毎年９月から11月に開花し、さらに１年後に実をつける。その実を天日干しした後、一つ一つ殻を剥き、さらに乾燥させる。乾燥した茶の実を搾油機で搾り、しばらく放置するとオイルが沈殿物と上澄み部分の２層に分かれる。この透明な上澄み部分から、さらに不純物を取り除くと、綺麗な茶の実オイルができる。現在これらの作業は思いに共感する仲間達やこの活動に賛同する村内外の人々によって手作業で行われている。これだけの手間暇をかけても取れるオイルの量はごくわずかだが、オレイン酸やリノール酸などの有用成分が多く含まれ、「東洋のオリーブオイル」とも呼ばれる大変貴重なものだ。

こうした活動を知ってもらうために様々なイベントが行われており、村外からの参加者も多い。その１つが茶の実オイルを使った保湿クリーム作りの体験イベントだ。茶の実を搾油機で搾って抽出した油と温めた蜜蝋を混ぜ固めると金色のクリームができる。できたクリームは、保湿力も高く肌にも優しいと好評だ。

■茶の実という価値を生み出し、地域ビジネス創生へ

中森氏は「放棄茶園のオーナーの大半は高齢。茶葉生産の茶園としての管理は困難でも、茶の実を収穫することは可能だ。集めた茶の実を当研究所が買い取り、加工して販売する。この仕組みが確立し、村の経済が回っていくことが最終目標だ」と話す。現在、県外企業と茶の実オイルを使った商品開発の話もある。「今後、山添ブランドとして茶の実を活用した様々な商品が開発できれば、村民の雇用創出にもつながるのでは」と、中森氏らの挑戦は続く。

（村井　渚、八木陽子）

（左上から時計回りに）放棄茶園に生る茶の実／全身に使える茶の実オイル／保湿クリーム体験イベントの様子